

ミツナシヤマ 水無山 江沼郡山中温泉地に接する丘陵で、山中・日谷二領に跨る。山腹に醫王寺があり、遠望絶佳である。水無啼猿『よもすがらましましなくなり水なしの峰の正木の梢したひて 大蔵仰道』この附近まで猿の居たことがあるのであらうか。

ミツネ 三つね 堀麥水が明和八年に刊行した春興集で、去年の春濃夜に次ぐものである。外題を三つねとして、その下に『辛卯春興、加賀金澤』と判註を施してある。石叢散人の跋があり、板元は記してない。

ミツノウチリヨウ 水野氏領 能登には水野氏の領地があつたことがある。即ち元禄十一年五月三十日(十一月とするは非)幕府領の内四十六ヶ村表高一萬石に、舊備後福山侯水野美作守勝度の族水野政馬勝長を封じたのであるが、同十三年十一月勝長は下總結城に轉封を命ぜられ、その舊領は再び幕府に歸した。↓バクフリヨウ 幕府領。

ミツノウヘ 水上 鳳至郡宮古場の内の小字。

ミツノカンベエ 水野勘兵衛 次郎左衛門の子。大坂再役に従うて首一を得、祿千石に至つたが、前田光高逝去の際殉死せざるを以て世評宜しくなかつた。勤兵衛他國に往くとも千石の祿は取り兼ねまじく、若し取り得ないならば罷歸り切腹しようとして腹を申上げたが、何れにも召抱へるものがなかつたので、寶圓寺に來り切腹を遂げた。子半右衛門亦光高に仕へて三百五十石を受け、その孫次郎左衛門は自殺絶炊したが、次郎左衛門の弟治右衛門の系は永續した。

ミツノゲンジ 水野源次 初代源次諱は好

ミツ

榮。もと大坂の人。後藤顯乘に學んで白銀師を職とし、慶長中前田利長に來仕し、慶安二年歿した。二代源次、父の歿後白銀師執許を命ぜられ、寛文七年歿。三代源次は元禄六年歿。四代源次は享保四年歿。五代源次は寶曆元年歿。六代源次は寶曆三年歿したが、子なく、弟を養うて七代源次たらしめた。安永七年本統絶え、九年源次元房入りて嗣いだ。元房は前師九藏の次子で、初め源六光政に技を學び、又京都に行き後藤東乘の門に入り、金澤に歸つて水野氏に養はれたのである。後加賀藩の御細工者に擢でられ、天保三年歿した。子源次克弘亦御細工者に列し、嘉永五年歿。その長子は早世したので、次子源次克正祿を受け、元治元年歿した。克正の子は源次克則で、廢藩の際業を止めた。

ミツノゲンベエ 水野源兵衛 初名政兵衛。佐々成政に仕へ、後前田利長に仕へて千石を受けたが、天正十八年三月八王子城攻撃に出陣して奮戦討死した。子平左衛門の時、氏を稻葉と改め、後裔世々藩に仕へる。

ミツノゲンロク 水野源六 初代源六好房は源次好榮の三子。寛永中父と共に金澤に來りて白銀職となり、貞享四年に歿した。二代源六照喜その後を受け、元文二年歿。三代源六多光は良工と稱せらるゝもので、寶曆十年歿。四代源六光政は多光の門より出で、嗣となり、その技精妙、寛政十二年歿した。光政亦子なく、門人の子多四郎その後を受けて源六光益と稱した。光益文化十三年歿し、養子源六光則六代となり、天保九年歿した。七代源六光和も亦養子で、安政二年白銀職棟取となり、慶應二年歿し、その養子八代源六光春は

明治二十八年に歿した。

ミツノゴエモン 水野五右衛門 前田利家に仕へて二百俵を受けた。子孫藩に世襲する。

ミツノサトナリ 水野里成 通稱内匠。父は内匠可成。大聖寺藩分封の際、里成千五百石を以て之に隨ひ、承應二年又金澤に還され、祿二千石に及んだ。

ミツノジロザエモン 水野次郎左衛門 水野内匠の弟。一に次郎右衛門に作るものは非である。前田利長に仕へて千石を賜はつたが、岩淵喧嘩の時に立退き、慶長十九年再仕して先知を賜はり、大坂再役には惣構内で首一つを得た。この次郎左衛門の子は別項の勤兵衛である。

ミツノタクエモン 水野宅右衛門 享保十一年御歩小頭新知百石に任じ、十五年前田重照の御抱手となつて組外に列し、後三十石を加へ、寛保三年廣尾御前御用人並に轉じ、寛延元年六十歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ミツノタケマサ 水野武雅 通稱平三郎。半太夫。享保十三年父津太夫の遺知百五十石を襲ぎ、定番馬廻に班し、寶曆六年出銀受拂奉行に任じ、次いで三十石を増した。

ミツノツネアリ 水野常有 大聖寺藩士。通稱勝左衛門、隱居の後春江といひ、東嶽と號した。近習役、劇場奉行・大目付・大筒頭等に任ぜられ、又繪を小原文英に學んで之を能くした。明治三十二年六月八十四歳を以て歿。

ミツノテモン 水ノ手門 金澤城鶴丸から、東丸の石垣下なる百間堀の縁に出る往來の小門である。門外におちよぼが井のあるによつて、それへ通ふ門の意であらう。聞見

雜錄に、水ノ手門の傍に利長の居館があつたと記してゐるのは事實らしくない。

ミツノナリキヨ 水野生清 天保十一年金澤に生まる。明治維新の後藩の士官となつて島田一良と交つた。五年石川縣選卒什長に任じ、八年十五等出仕警察掛に轉じ、九年七月警部に進み、十一年尙その職に在つたが、一良が參謀大久保利通を暗殺するの密謀に加り、その上京の資を給し、家族の保護に斡旋し、又警察の警戒隊を加ふるに及び、橋爪武を介して一良に注意を與へんとした。之を以て終身禁獄の刑に處せられ、十二年石川島監獄に病歿した。享年四十。

ミツノハンノジヨウ 水野半丞 祿二百石を受け、大小將組に班した。享保十一年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ミツノヒロトモ 水野寛友 通稱徳三郎。馬廻組の土嶺新兵衛の三子で、組外水野清太夫の養嗣子となつた。天資卓犖、勇氣才幹あり、少より南部虎之助の門に入つて武術を練磨し、二十歳の時御算用場の吏に登用せられ、文久・元治の頃廢藩侯に從うて上洛した。明治元年北越の戦に一隊を率ゐて轉戦し、六月二十四日久田村の爺が山に陣した時敵の襲撃を受けて歿。享年三十八。

ミツノマ 水ノ潤 羽咋郡福浦の内の小字。邑名はその前面の潤を水ノ潤と呼ぶに因る。

ミツノマイシ 水ノ潤石 羽咋郡福浦小字水の潤から産する石材。輝石安山岩で、黝黑色石基中に礫狀の白色斜長石及び黑色輝石を散在せしめるもの。質は極めて粗澁である。

ミツノミ 水飲 ↓アタマフリ 頭振。

ミツノミハル 水野三春 羽咋郡神代なる